

保健だより 9月号

令和6年度
丹原高等学校
生徒保健委員会



9月1日は「防災の日」でした。1923年9月1日に発生した関東大震災の経験を踏まえ、防災意識を高めるために制定されました。また、昔から「台風や大雨などの災害に気を付けなければいけない日」として警戒されてきたそうです。

先日は、台風10号が日本列島に記録的な大雨や暴風をもたらし、丹原高校でも8月30日は、警報に備えて自宅待機となりました。今回の台風では、非常持ち出しグッズを点検したり、家族と避難場所を確認したりする機会になったと思います。いざという時に慌てないよう、日頃の備えや確認が大切です。

2年3組保健委員（桑村）

避難場所 知ってる？



いざという時のために
家族で集合場所を
決めておきましょう



保健委員がピックアップ 【健康ニュース】

「紛争地の感染症流行懸念、衛生環境悪化 対策難航 国際リスクに」

愛媛新聞 2024.9.2

世界の紛争地域で感染症流行への懸念が相次いでいる。パレスチナ自治区ガザでは25年ぶりにポリオ（小児まひ）が確認され、1日に戦時下の予防接種が始まった。鉱物資源の権益を巡り武装勢力が乱立するアフリカ・コンゴ東部ではエムポックス（サル痘）が拡大。いずれも戦闘で衛生環境が悪化し、感染対策が難航しているのが一因だ。人を介して境界を越える病原体も多く、長引く紛争は公衆衛生上の国際リスクになりかねない。（以下略）



今、世界の紛争地域では、多数のインフラや医療施設、上下水道に被害が出たため、劣悪な環境で避難生活を余儀なくされている人々がいます。病院で十分な治療ができなかったり、衛生状態が悪化したりするなど、感染症がまん延しやすい状況にあるそうです。

感染症は遠い地域の問題だと考えていたら、国境や海を越え、あっという間に世界的な流行となることがあります。新型コロナウイルスがそうでした。私たちは、過去の経験を振り返って今の生活が当たり前のものではないと感じ、世界の状況に目を向けることが大切だと思いました。

2年3組保健委員（苔口）